

第89期 中間報告書

2018年4月1日~2018年9月30日

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維（ナスロン）を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードし続けています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

ここに、当社第89期中間期（第2四半期累計期間、2018年4月1日から2018年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申しあげます。

2018年12月



代表取締役社長

新貝 元

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や所得・雇用環境の改善に支えられて緩やかな回復基調で推移し、また世界経済も欧米をはじめ概ね堅調に推移しました。一方で、国内で相次いで発生した自然災害の影響、また米中貿易摩擦の展開や金融市場の動向など景気の先行きは不透明感を強めました。

当社及び連結子会社(以下「当社グループ」という。)が属するステンレス鋼線業界では、自動車関連をはじめ需要は概ね堅調であったことから、業界出荷数量は前年同期比増加となりました。また、LMEニッケル価格は期前半の上昇基調から一転、7月以降は下落に転じるなど、不安定な動きとなりました。

このような状況の中、当社グループでは、連結経常利益55億円、連結売上高経常利益率(ROS)10%以上及び連結総資産経常利益率(ROA)10%以上などを経営目標とする『第14次中期計画(NSR20)』(最終年度2021年3月期)の達成に向け、収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。

当中間期の売上高につきましては、主力のステンレス鋼線部門は、販売数量が前年同期に比べ増加したことに加え、ニッケル価格変動に伴う

販売価格引き上げ効果もあり増収となりました。また、金属繊維部門につきましても、ナスロンフィルターが好調に推移し、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)も堅調であったため増収となりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は199億41百万円(前年同期比7.2%増)となりました。

損益につきましては、高機能・独自製品は堅調に推移したものの、減価償却費など固定費の増加や販売関連費用の増加などにより、営業利益は21億84百万円(前年同期比1.5%減)となりましたが、為替差益の増加などにより経常利益は22億22百万円(同1.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億53百万円(同0.7%増)となりました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき70円とさせていただきます。

次に、部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

主に自動車関連需要が引き続き好調であったことなどにより、販売数量が前年同期に比べ増加したことに加え、ニッケル価格変動に伴う販売

価格引き上げ効果もあり、ステンレス鋼線の売上高は前年同期に比べ増収となりました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO.,LTD.につきましても、ステンレス鋼線の販売数量が大幅に増加したことなどにより売上高は前年同期比で増収となりました。

これらの結果、ステンレス鋼線部門の売上高は162億16百万円(前年同期比4.7%増)となりました。

金属繊維(ナスロン)部門

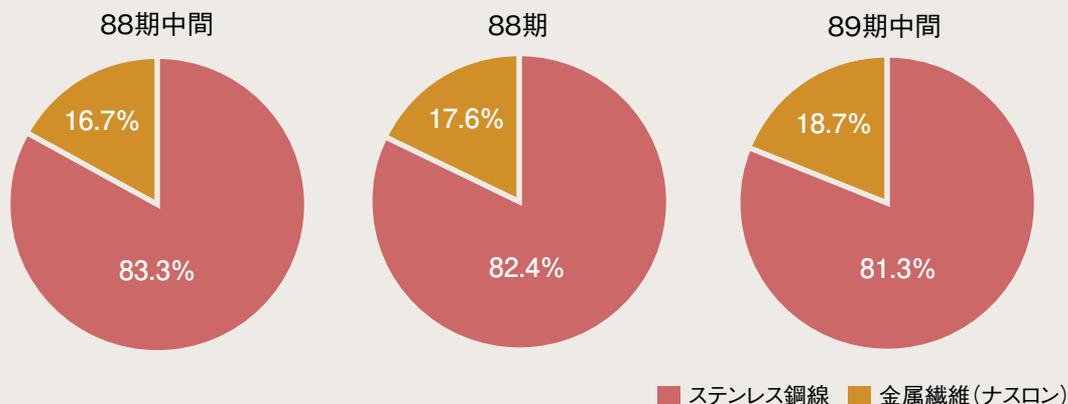
ナスロンフィルターは、ポリエステルフィルム

向けに加え、化合繊維向けや高性能樹脂用途についても好調に推移し増収となりました。超精密ガスフィルター(ナスクリン)は韓国や台湾での半導体メーカーを中心とした設備投資の先送りによる影響はあったものの増収となりました。

また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましても、中国国内向けの販売が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比で増収となりました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は37億25百万円(前年同期比19.7%増)となりました。

■ 部門別売上構成比(連結)



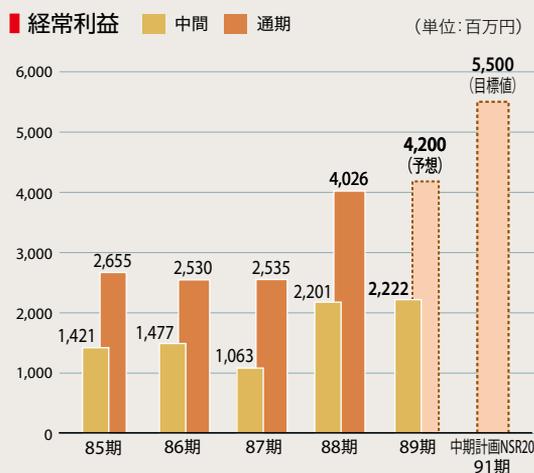
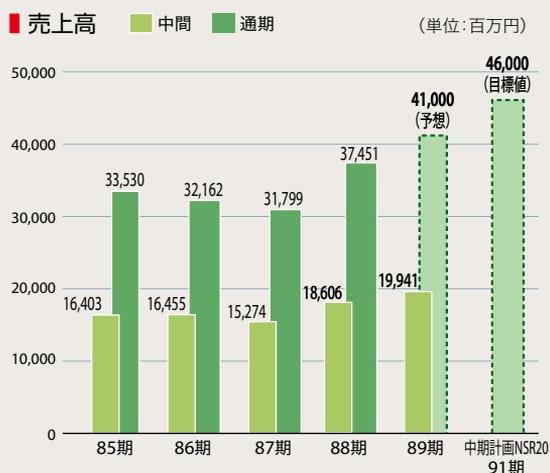
今後の見通しといたしましては、米中貿易摩擦問題や新興国経済の減速に加え、世界的な地政学的リスクの高まりなど懸念すべき課題は山積しております。また、業界特有の問題として、当社グループの主力製品のステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、加えてニッケル価格に起因する原材料価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれております。また、金属繊維（ナスロン）も化合繊維向けなどの一般汎用製品については競争が激しくなっております。

こうした中で当社グループはかかる経営環境に対応するべく、より筋肉質な企業基盤を目指し、

既述の『第14次中期計画（NSR20）』の課題に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ボルト用材や高合金線などの独自製品に加え、新用途製品の立ち上げを推進してまいります。一方、生産面では需要家のグローバル展開に対応した海外2工場の競争力強化や、東大阪・枚方工場リニューアルの推進等により、引き続き国内外の最適生産体制の構築を進めてまいります。開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集する

業績の推移(連結)



ことによる新製品開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでまいります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用等による海外市場への拡販、また、国内でもより高機能化・高精度化する需要に応えるべく技術開発を継続してまいります。

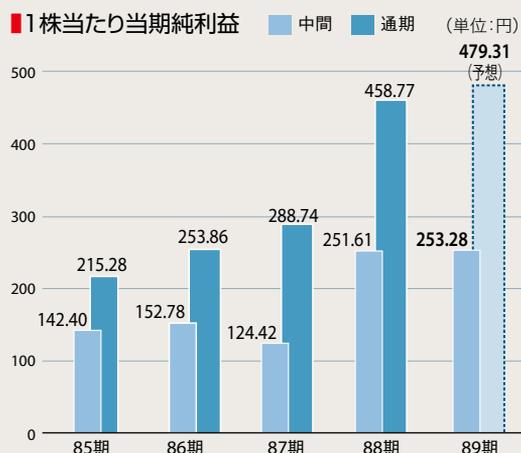
さらには、環境・医療・エネルギー関連など幅広い分野での新製品開発などにも鋭意取り組んでまいります。

以上の諸施策を確実に実行することにより、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』を

目指してまいります。

なお、2019年3月期の連結通期業績につきましては、2018年4月26日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



※2017年10月1日を効力発生日とする株式併合を実施しましたが、85期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

連結決算

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表

科目	期別		
	当第2四半期末 (2018年9月30日現在)	前第2四半期末 (2017年9月30日現在)	前期末 (2018年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	26,902	26,447	27,165
現金及び預金	11,686	12,924	13,097
受取手形及び売掛金	8,724	8,070	8,183
商品及び製品	2,065	1,616	1,637
仕掛品	2,945	2,604	2,784
原材料及び貯蔵品	1,322	1,068	1,292
その他	157	162	170
固定資産	15,562	13,388	14,899
有形固定資産	12,704	10,609	12,041
建物及び構築物(純額)	4,622	3,536	4,128
機械装置及び運搬具(純額)	5,640	4,479	5,189
土地	1,589	1,577	1,581
リース資産(純額)	8	2	2
建設仮勘定	306	687	706
その他(純額)	537	327	433
無形固定資産	352	376	374
投資その他の資産	2,504	2,402	2,483
資産合計	42,464	39,835	42,065

科目	期別		
	当第2四半期末 (2018年9月30日現在)	前第2四半期末 (2017年9月30日現在)	前期末 (2018年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	8,220	7,642	8,947
支払手形及び買掛金	5,079	4,603	5,105
短期借入金	547	520	526
未払法人税等	797	765	928
賞与引当金	695	591	632
役員賞与引当金	—	—	30
その他	1,100	1,160	1,726
固定負債	4,513	4,675	4,537
長期借入金	150	430	290
リース債務	7	2	1
役員退職慰労引当金	36	36	47
環境対策引当金	—	47	19
退職給付に係る負債	4,306	4,159	4,179
その他	12	—	—
負債合計	12,733	12,317	13,485
純資産の部			
株主資本	29,606	27,520	28,482
資本金	5,000	5,000	5,000
資本剰余金	5,442	5,442	5,442
利益剰余金	20,011	17,923	18,887
自己株式	△ 847	△ 845	△ 846
その他の包括利益累計額	△ 109	△ 211	△ 133
その他有価証券評価差額金	70	64	55
繰延ヘッジ損益	△ 0	—	0
為替換算調整勘定	56	8	93
退職給付に係る調整累計額	△ 235	△ 283	△ 282
非支配株主持分	234	209	230
純資産合計	29,731	27,518	28,579
負債純資産合計	42,464	39,835	42,065

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。

*「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計)		前期
		(2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	(2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	(2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
売上高		19,941	18,606	37,451
売上原価		16,103	14,861	30,298
売上総利益		3,837	3,745	7,153
販売費及び一般管理費		1,653	1,529	3,148
営業利益		2,184	2,216	4,004
営業外収益		74	47	125
営業外費用		36	62	103
経常利益		2,222	2,201	4,026
特別利益		28	0	1
特別損失		27	—	—
税金等調整前四半期(当期)純利益		2,223	2,201	4,028
法人税、住民税及び事業税		726	688	1,275
法人税等調整額		△ 65	△ 33	△ 76
四半期(当期)純利益		1,562	1,546	2,829
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益		8	2	15
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益		1,553	1,543	2,814

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計)		前期
		(2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	(2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	(2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,002	1,838	3,791
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,972	△ 825	△ 2,195
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 546	△ 440	△ 890
現金及び現金同等物に係る換算差額		21	37	75
現金及び現金同等物の増減額		△1,494	610	781
現金及び現金同等物の期首残高		13,013	12,231	12,231
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		11,518	12,842	13,013

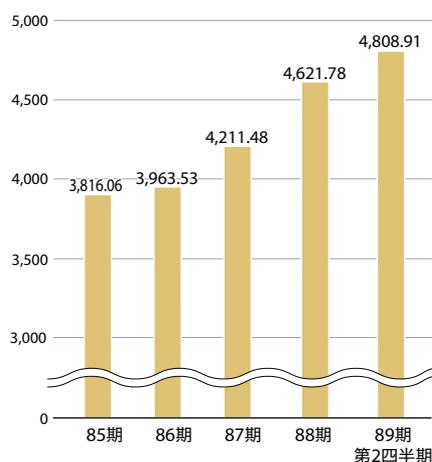
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



※2017年10月1日を効力発生日とする株式併合を実施しましたが、85期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

会社の概況 (2018年9月30日現在)

会社概要

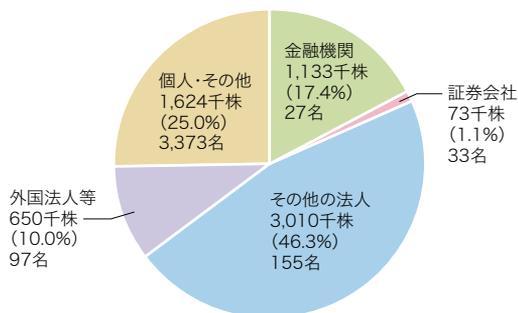
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 1951年6月30日
資本金 50億円
従業員数 604名
ホームページアドレス <http://www.n-seisen.co.jp/>

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 25,000,000株
- 発行済株式の総数 6,492,293株
- 当第2四半期末株主数 3,685名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本社 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)・名古屋(名古屋市中区)
工場 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)

■主な子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO.,LTD. (*)	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司 (*)	80%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連

(*)は連結対象子会社

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	2,620 ^{千株}	42.72 [%]
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	276	4.50
株式会社みずほ銀行	217	3.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	154	2.52
特殊発條興業株式会社	106	1.73
前尾和男	95	1.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	85	1.39
株式会社三菱UFJ銀行	67	1.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	62	1.02
A S A D A 株式会社	60	0.97

(注) 1. 持株比率は自己株式(358,459株)を控除して計算しております。
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

役員 (2018年9月30日現在)

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	新 貝	元
*取締役	川 端 泰	司
*取締役	秋 田 康	明
取締役	花 井 健	彦
取締役	関 公 彦	
取締役	滝 沢 正 明	
取締役	石 濱 辰 哉	
常勤監査役	中 川 幸 朋	
常勤監査役	若 松 壮 一	
監査役	花 輪 博	
監査役	笹 山 眞 一	

執行役員

常務執行役員	川 端 泰 司
常務執行役員	西 田 成 夫
常務執行役員	富 永 誠 司
執行役員	秋 田 康 明
執行役員	吉 田 厚
執行役員	津 田 俊 之
執行役員	加 藤 泰 資
執行役員	高 橋 一 朗
執行役員	岩 城 泰 王
執行役員	小 林 眞 裕
執行役員	越 智 隆 彦
執行役員	大 塚 雅 彦
執行役員	谷 口 政 広

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	その他必要のあるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日
	中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) ●インターネット
	https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html

ご報告

社会貢献活動団体への寄付

本年3月末の株主様対象に実施しました合併10周年記念特別優待「選べるカタログギフト」にて『社会貢献活動団体への寄付』を選択された株主様31名分の寄付金額と当社からの加算分とを合わせ、寄付金総額100,000円として、10月下旬に日本赤十字社へ寄付しました。

多くの株主様より温かいご芳志を賜り、心よりお礼申し上げます。

NIPPON SEISEN CO., LTD.

